

NPO 法人

全日本語りネットワーク

ニュース

〒185-0021 東京都国分寺市南町 2-18-3 国分寺マンション B-03A

(Fax) 0237-67-7001 (振替) 00130 - 2 - 114808

(E-mail) welcome@japankatarinet.jp

(HP) http://japankatarinet.jp/

2021. 10. 23 発行

平和の語りに寄せて

高橋京子 (福島県会津若松市)

イラストも



センダイハギ

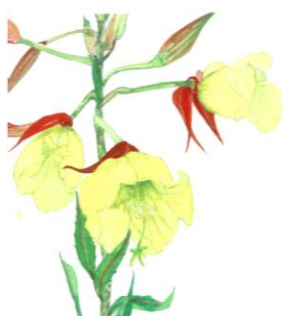
私の住む会津若松市では、毎年8月に3日間の「市民平和まつり」が開催されてきました。(ここ2年間コロナのため休会) 平和講演会、世界の音楽会、工夫をこらした展示、平和を考える本の読み聞かせなど多彩です。アメリカの写真家ジョー・オダネル氏の講演会と写真展が開かれた年は、文化センター始まって以来の入場者最多の記録となりました。オダネル氏はアメリカの国の公認のカメラマンです。前回の大战の時、広島と長崎の原爆投下後を記録するため投下直後の現地に立ち記録写真を撮りました。当時は放射性物質が人体に与える影響など誰も知らなかったのです。

何も残っていない現場には、真白い人骨がバラバラと限りなく散り異臭がただよっていました。この過酷な任務で、彼は全身残すところなく放射線にまみれます。現状のすさまじさに帰国後おぞましい記録を収めた私用のカメラ、記録を封印しました。もう見るのもいやだったのです。

数回に及ぶ手術、全身のしこり、腸の切除、ぼろぼろになる骨、止むことのない痛みを抱える中で、広島長崎の原爆被害者鎮魂の意を込めた彫刻像に出会い大きな衝撃と共に、あの光景を思い出します。そして彼は気づくのです。「自分の国がやった原爆投下は、まちが이었다。人間が同じ人間にしてはいけないことだった」と。封印した写真をアメリカ国民と世界に向けて示し訴えていこうと決意、その後の生涯を、そのために捧げます。

アメリカ国内で写真展を試みますが、原爆投下を否定されるのを嫌う人が多く受け入れられません。写真集の出版もかなわず、それが実現できたのは日本の出版社でした。(『トランクの中の日本』小学館 1995)。彼の写真は、見る人の目に多くを語ります。オダネル氏より写真を託されている若松栄町教会では、この8月、礼拝堂を解放し、小さなジョー・オダネル写真展を開催。コロナに気をくばりながらも、幼児から大人まで家族一緒に写真について語らいながら見てくれた事はとても嬉しいことでした。

写真が見る人にあたえる力、ショックや感動は、「語り」を通して伝えられると私は思います。子どもに語る時、目が輝く、びっくりしたり、笑ったりするのを見る時です。



オオマツヨイグサ

「声は触覚的だ。声になった言葉は、脳と同時にからだ全体に働きかける。」(谷川俊太郎『声の力』より) という言葉を思い出します。

8月、どんな語りをどんな言葉で語ることが出来るでしょうか。

オダネル氏の「写真が語る力」を、私たち語り手は、言葉で聞く人の心に伝えることが出来ます。そして語りは戦争を避け平和な世界を実践するために人の心と心を結びつけること、やさしさや思いやりの心や暖かさを伝えることが出来ると思っています。語りたいたいです。